

〔短 報〕

## 研究博物館としての目黒寄生虫館

### Meguro Parasitological Museum and its research activities

亀 谷 了

はじめに：

日本においては、博物館という言葉の意味が、ややともすると、単なる資料の蒐集場所であるかの様に考えられている場合が多い。この事が博物館の発展にどれ程障碍になっているかわからない。かかる考え方は間違っていて、わけても自然科学系統においては許されないところである。即ち、研究とその成果の出版とは絶対に欠かすことの出来ない条件である。

また一面博物館は、一般研究所とか大学研究室とは異なり、その分野における資料（標本及び文献その他を含む）を豊富にかつ完全に保有し、それが整理公開されねばならぬという条件も備えていなければならない。当館は開設以来かかる観点から今日まで運営されて来たのであるから、その活動状況を報告したい。

研究活動について：

現在の研究員の構成は、専門の研究員は4名であるが、そのほかに館の指導によって研究を行っている研究生が若干いる。研究の主題は分類学が多く、海産、淡水産魚類を材料にして、分類、発生、疫学等を研究している。もちろん人体寄生虫に関する研究も行うことは当然である。かかる研究は学会及び専門誌に発表しただけでも既に100題は越えている。当館よりはその発表機関として Research Bulletin of the Meguro Parasitological Museum を発行している。これは不定期刊行物で、欧文を原則とし、館の関係者による論文を主体とし、これと同趣旨の論文は国内、国外からも若干受けつけている。

このほか、日本の寄生虫学研究の総括紹介という目的で、和文「日本における寄生虫学の研究」全5巻B5：2,800頁の刊行が完成し、英文『Progress of Medical Parasitology in Japan』は全6巻のうち5巻までB5：2,900頁が完了し目下6巻の編集を行っている。これに

よって最近100年間の日本における寄生虫学の研究の集大成が完成するわけで、今日までに得た内外よりの反響は極めて大きい。

資料の広範囲な蒐集：

当館では、当館自身の研究遂行のためにも、一般利用者の要望に応えるためにも、専門分野に関する資料を豊富にかつ完全に保有し、整理し公開することにつとめている。そのためには館自身の研究成果を活用することはもちろんであるが、さらに専門学者の所蔵されている資料の一括入手ということも計画し、今日までにも相当の量にのぼった。即ち山口左伸博士、吉田貞雄博士、福井玉夫博士、石井信太郎博士、田熊清一郎氏らの大量の資料の入手、各地の大学研究所よりの寄贈資料等を合せると、現在標本3万点以上、文献3万点以上となりその数においては世界的の存在となっている。連日海外より送られる文献も相当数にのぼっているが、このほか、世界中で発表される主要論文の完全な蒐集整理もある分野では行っている。これらの整理は目下のところはカード式で行っているが、コンピューターの利用も考慮中である。

館の活動状況の報告と横との連絡：

この目的のためには「目黒寄生虫館月報」を発行して来たが95号で「目黒寄生虫館ニュース」と改題し、ひきつづき刊行している。

陳列室の整備：

博物館として一般参観者には、主として人体寄生虫に関する智識の普及に役立つ様なテーマを選んで、パネル、標本、模型等により展示を行っている。専門学者への標本文献の公開は勿論である。

(かめがい・さとる＝目黒寄生虫館)

ABSTRACT: The present author believes that substantial factors for being a Museum consist of two essential parts. One of which is to collect materials as much as possible for exhibition to public with special arrangement as well as for mutual exchanges between related museums and the other is achievement of publications of research work on its own field by the staff of the museum. The activities of the Meguro Parasitological Museum is introduced as follows: 1) Research activities: Main field is taxonomy and biology of helminthes and other parasitic animals. More than 100 original papers made by the museum staff have been reported in major journals and/or in the corresponded societies' meetings to date. 2) Collection of parasitological specimens and literatures. Including Dr. Satyu

Yamaguti's Helminthological Collection which is famous as one of the largest collection made in this century in the world, the museum is holding more than 31,000 specimens and 30,000 literatures all of which have been opened for public use. 3) Publication: a. "Progress of Medical Parasitology in Japan" have been published in Japanese in 5 volumes (1961-1965) and in English in 5 volumes (1965-1973); totaling 2,800, 2,900 pages respectively. (50 outstanding authorities and scholars from Japan have contributed in this series). b. "Research Bulletin of the Meguro Parasitological Museum (No. 1, 1967 - No. 7, 1973) and c. "Meguro Parasitological Museum News (No. 95, 1967-No. 115, 1973) (formerly as "Monthly Report" No. 1, 1959-No. 94, 1967).

(Meguro Parasitological Museum, Tokyo)